

令和3年8月10日

南の風東京2020オリンピック特集号 I

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

日本女子代表アカツキファイブ12人がやりました！！
日本バスケットボール界の歴史を変えました！！
オリンピック銀メダル、本当に、本当に素晴らしかったです！！
おめでとうございます！！

そして、日本中に勇気と感動を届けていただきありがとうございました！！

テレビでコメンテーターの北島 康介さんが、日本女子代表が決勝に進出した際に、「何も言えねー」と言っていました。正にその通りです。素晴らし過ぎて言葉がでませんでした。

読者の皆さんも、テレビや動画でご覧になって感動の連続だったことと思います。予選リーグを2勝1敗で勝ち抜いた日本は、準々決勝のベルギー戦を残り15秒で林選手の3P シュートで逆転し、準決勝に進みました。続く準決勝のフランス戦では、第1Q リードされる苦しい展開でしたが、第2Q で逆転しそのまま振り切り決勝に進出しました。決勝では、皆さんご承知のようにアメリカの大きな壁の前に敗れましたが、日本のバスケットボール史上初めての銀メダルに輝きました。

思えば、2016年のリオ五輪でベスト8に入った後を引き継いだ、トム・ホーバスヘッドコーチは「東京オリンピックでは、決勝でアメリカを倒して金メダルを取る」と公言しました。周りからは笑われ「できるわけがない」、「無理に決まってる」、「夢物語だよ」と言われました。

ところが、この東京オリンピックでアメリカを倒すことは叶いませんでしたが、決勝に進み目標にあと一步のところまで迫ったのです。

トム・ホーバスヘッドコーチのリーダーシップの下、日本代表（今回の12人だけでなく）も血のにじむような努力、スタッフ、関係者の日々のサポートがあり実現した結果だと思いました。

改めまして皆様のご努力に心より敬意を表します。

さて、今大会を振り返ってみます。

決勝まで進み、銀メダルに輝いた要因はいくつかあると思います。

私はキーポイントのゲームは、予選のフランス戦だったと考えます。あのゲームで勝利したことが、日本代表の大きな自信となり、決勝まで突き進めた原動力となった気がします。

振り返ります。第1Q スターティングメンバーは、長岡、高田、三好、町田、赤穂でした。立ち上がり緊張もあり、固さが目立ち得点できない状態が2分続く。三好と交代して林を投入する。その後、林のアシストパスで赤穂が初得点を上げる。続けて林自ら3P シュートを沈める。

フランスは、固い守りで日本の得点を抑える。攻めではインサイドを起点に得点を重ねる。日本はたまたらタイムアウトを取る。日本はやや持ち直し、日本13-17フランスで第1Q 終了。

第2Q に入ると、強気に攻める本橋と馬瓜の連続3P シュートを決まり、日本が初めてリードする。流れを切りたいフランスはタイムアウト。その後、一進一退の攻防が続きゲームが進行する。日本は宮澤の3P も決まり、第1Q と異なり流れが良くなる。フランスは外角のシュートを中心に得点が決まり一歩リードする。日本34-36フランスで第2Q が終了。